

新年度が始まって2か月、新しい職場の環境への適応がうまくいかず、なんとなく心身に不調があらわれる状況もあります。そんな時だからこそ、一息ついて、ゆっくりと読書をする時間を持つてみませんか。

人権センターでは人権に関する図書を取り揃えており、1回に5冊まで2週間借りることができます。人権センターにお越しいただくか、お電話でお問い合わせください。

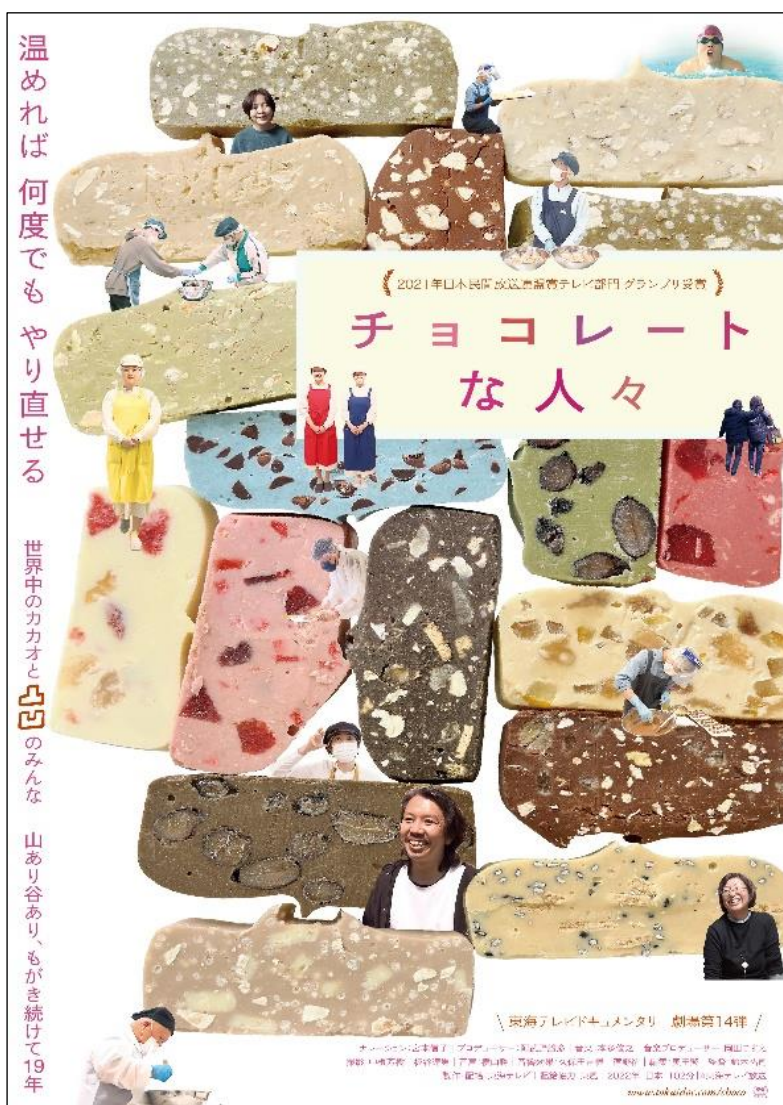
また、本市では人権について様々な分野をいろいろな視点から学ぶことができる「よっかいちじんけん大学あすてっぷ」を開講しています。今回はじんけん大学あすてっぷの開講式関連の図書もご紹介します。

よっかいち人権大学 あすてっぷ 2025

主催：人権センター

6月14日(土) 13:00～15:45(開場12:30)

四日市市文化会館第2ホール



© 東海テレビ放送

久遠チョコレート代表
なつめひろつぐ

夏目浩次さん ご登壇&トーク



夏目浩次さん

2003年、愛知県豊橋市において障害者雇用の促進と低賃金からの脱却を目的とするパン工房(花園パン工房ラ・バルカ)を開業。2014年久遠チョコレート事業を立ち上げ、わずか5年で全国33拠点に拡大。「全ての人々がカッコよく輝ける社会」を目標に、様々な企業へ経営参画し企業連携・事業開発に取り組みながら障害者の雇用、就労促進を図っている。

インタビュー

北勢地域若者サポートステーション
所長 小林 理華さん

～スケジュール～

13:00～ よっかいち人権大学あすてっぷ開講式
記念映画「チョコレートな人々」上映

15:00頃～ 久遠チョコレート代表
夏目浩次さんのお話

関連図書のご案内

『温めれば、何度だってやり直せる』

チョコレートが変える「働く」と「稼ぐ」の未来』

(F-249 著者：夏目浩次 講談社)

この本で語られるのは、夏目さんの無謀ともいえる挑戦と、ぶつかり続けた壁と、次々と現れる課題を乗り越えるために絞り出された知恵と汗の物語。学歴も技術もキャリアも自信もお金もなかった夏目さんが、世の中で「使えない」とされている人たちに「稼げる場所」を作ろう、と奮闘してきた道のりだ。そこには、逆境の中においても「無理だ」ではなく「どうしたらできるか」の逆算思考で組織を成長させ、ビジネスに変える数々のアイデアが語られている。

「人に合わせてもらうのではなく、人に合わせて組織を変える選択をするのが久遠チョコレートだ。」……本文より



『天までのぼれ』（G-134 著者：中脇初枝 ポプラ社）

男も女も、民衆には多くの権利がなかった頃、高知で女性参政権を求めて申し立てをした楠瀬喜多。江戸から大正にかけて生き、世界でも早い時期に声を上げた彼女は、板垣退助ら男性の民権家が活躍した激動の時代に、何を見て、何を感じていたのか。そしてそのまなざしの先にあったものは—
100年後の今のわたしたちが手にしているものの大切さに気づかされる、著者初の評伝小説
「女も住むこの国のことを、女抜きで決めないでほしい——」……………本文より



『答えを急がない ほうがうまくいく あいまいな世界でよりよい判断を するための社会心理学』

（J-4 著者：三浦麻子 日経BP）

人間はあいまいな状況が苦手です。「次に何が起きるか」を予測できない状態に、不安や場合によっては命の危険を感じるからです。しかし私たちの日常には、「情報過多」「どっちつかず」「初めての経験」など、あいまいで不確実なシーンが数多く訪れます。すると人間は答えを急いで、あいまいな状況から抜け出して不快を回避しようとしませんが、それが「よりよい判断」につながるとは限りません。では、どうすればあいまいな状況でも冷静に判断し、よりよい未来に近づくことができるのでしょうか？

本書は、この疑問に答えていきます。各章では、日常に活かせる社会心理学の知識や考え方に加えて、研究の舞台裏やユニークな実験結果など学術的な背景もわかりやすく紹介。知的好奇心も満たされる内容となっています。知識を深めながら、自分の考え方や行動を見直すきっかけになる1冊です。

『自閉症の僕が家建てた理由 家族で考えた自立のかたち』

（F-250 著者：池田侑生、池田信子 中央法規出版）

母の信子さんは、侑生さんが生後数か月の頃から「何かが違う」と感じていましたが、健診では「何度も様子を見ましょう」と言われ続け、ようやく3歳の時に「自閉傾向のある発達遅延」と診断を受けます。現在のように発達障害という事が世間には浸透していない頃に信子さんは、母として「社会の役に立つ人間に育ててほしい」という思いをもって、侑生さんの特性を見極め、周りの人に理解をしてもらうよう努力されます。やがて、侑生さんは、高校卒業した時に「20歳になったら僕の働く所の近くにアパートを借りて自立します」と宣言します。そして自立するために家を立てることになります。副題にもある「家族で考えた自立」の形とはどういうことなのか？

障害のある児・者の兄弟姉妹を平仮名で「きょうだい」と表現します。きょうだいの思いもこの一冊から感じ取っていただきたい。ぜひ、読んでほしい一冊です。



令和6年度 四日市市民人権意識調査 結果の概要



四日市市人権センター
令和7年3月

この冊子は、四日市市が人権を大切にするまちになるよう、様々な人権課題への取組を進めるための基礎資料とするものです。

市内にお住まいの18歳以上の方4000人を無作為に選び、そのアンケート結果を集計しました。

冊子は四日市市総合会館 1階に、配架してあります。

ぜひ、手に取ってご覧ください。

